

令和元年度

YURIKAGO 通信

《7月号》

R1.6.25 東京ゆりかご幼稚園



田植え、終了！

梅雨空の下、子ども達はお空とにらめっこをしながら、晴れ間を狙って外で思い切り遊んだり、水遊び等を楽しんでいます。また、もうじきやってくる夏祭りに向け、盆踊りや、七夕飾りやおみこしの制作も楽しみながら、祭りへの期待を高めています。田んぼでは、年長さんが田植えを終え、かかし作りをして夏に備えます。おかいこさんも各クラスで元気に育ち、糸を吐き繭になり始めました。今年はたくさんの生糸がとれそうです。これも、毎日園庭の桑の葉をとり、愛着をもってお世話をする子どもたちの取り組みによるものです。また、桑の葉をとるついでに、桑の実やグミ、ピワなど、この時期ならではの自然の恵みを収穫し、美味しく頂いています。畑では毎日様々な種類の夏野菜を収穫し、ていねいに洗ってうれしそうに調理室に運ぶ様子が見られます。そして給食には瑞々しい有機野菜が目を、舌を楽しませてくれます。自然の息吹と季節の流れを感じながら、子ども達は大きく大きく育っています。



日曜参観 日曜参観には大勢の皆様にお越し頂き有り難うございました。学年ごとの発達に応じた活動をご一緒に楽しんで頂きました。お子様の成長を感じて頂けたら幸いです。子ども達もお父様やお母様と素敵な時間を過ごすことができ、次への成長のステップとなりました。



年長は森の萌芽更新で伐採された原木で「こびと作り」
年中は「UFOキャッチャー制作」
年少は「くいしんぼうタヌキ！」

カイコ

ゴマ粒より小さかった卵が孵化し、1ヶ月が過ぎ、約1万倍の大きさに生長しました。そして全クラスでカイコの飼育と観察が始まりました。生長が早いクラスでは糸を吐き、繭（まゆ）を作り始めています！

子ども達が園庭の数カ所に自生する桑の葉をとり、カイコにあげては食べる様子を観察しています。また担任と一緒にカイコのお部屋を掃除したりと、毎日お世話をしながらだんだんと仲よくなってきました。「家蚕」と書くように、それこそペットのように子ども達は可愛がっています。年少さんも「かわいい！」と喋り手手にのせたりする様子がみられます。

八王子は「絹のまち」ですので、地域文化への理解を深めるため、小学校でかいこの飼育をおこなっている所が多いですが、幼児期にカイコに触れ、世話をし、慈しむ気持ちが芽生えることで、子どもの心の成長に大きな効果をもたらします。

「知識を得る」より先に「触れ合う体験」を持つ事。幼児期の原体験が大切です。



年少 森へ

年少さんはよく森の動物になりきって遊んでいます。お部屋で動物ごっこを楽しんだり、日曜参観でも保護者の皆さんとタヌキ等の動物に親しんだり、、、。また、帽子をかぶり、森に棲む動物さん達に変身して森の中を散策しました。通称「グリといぐら」の広場に出かけるとは、タヌキさんからのお手紙とごちそうが！「今度は会えるかな？」。またタヌキさん会いに来ましょね！（このように、特に年少さんは物語などの虚構と現実とを行き来しながら、豊かな心を育てていきます。）



年少 つどいの森公園へ

バスに乗って「つどいの森公園」に出かけました。広場でお友達や先生とみんなと一緒に体操をしたり、動物に変身したり、林の中でネイチャーゲーム（カモフラージュ=にせ物探し）をして遊びました！



年少フィンガーペインティング

年少さんは絵の具を使ってフィンガーペインティング。絵の具の感触を楽しみ、いろいろな色が混ざり合うことに驚きも感じながら、感性も心も開放しました！



年中 麦の収穫

棚田で年少の11月から育ててきた麦がようやく収穫の時期を迎えました。鎌で刈り取り、干して脱穀し、唐箕をかけ、石臼で挽き、小麦粉にしました。さてクッキングでは何を作りましょうか？ お楽しみに。



年中 森の中でネイチャーゲーム

森の中で、じっくり自然とふれあいました。ネイチャーゲームを通して、普段気づかないような自然物にも目を向け、たくさんの発見をしました。



年中・長 森へ合同園外保育

年中、年長と一緒に園外保育に出かけました。森を抜けて山の反対側へ、、、年長さんが年中さんに優しく声をかけたり、手をつないで山道を仲良く歩きました。お弁当も一緒に食べることができ、1日でとても仲良くなれました。



年長 稲作(しろかき～田植え)

田んぼの泥を軟らかくする「しろかき」。恒例の泥すべり台で泥だらけ！泥遊びを満喫しました！ 田植えでは、大切に育てた苗を丁寧に植えました。手間ひまをかけて美味しいお米を作ります！



年長 プラネタリウム

八王子子ども科学館にプラネタリウムを見に出かけました。満点の星に感動！科学遊びコーナーでは、様々な仕掛けの遊具で「不思議」を体験しました。年長さんは科学的に物事を見る事ができるようになっていきます。こうした「科学性の芽生え」は日常の園庭での遊びや自然との触れあいから多くを得ています。

